

2015 年度

公益財団法人東京子ども図書館

# 年次報告

2016年7月発行



## 未来へつなぐ

理事長 張替恵子



昨年6月に、新理事長に選任されてから1年がたちました。その後、運営の引き継ぎはうまくいっているのか、ご心配の方もいらっしゃると思います。おかげさまで、2010年に公益財団法人の認定をうけてからは、事務局が運営のかなりの部分を取り仕切ってきましたし、松岡享子元理事長は執筆に専念する時間がふえ、その不在に慣れていたこともあって、新体制への移行は比較的スムーズだったといえるでしょう。そのうえ、名誉理事長となった松岡さんは折々館に顔を見せ、必要なときには相談にのってくださるのですから。

とはいえ、42年目にはいった東京子ども図書館のあゆみを未来へつなぐ役目を担った私と、いっしょに働いてくれている職員たちは、この理事長交代という節目が、自分たちの心のうちに及ぼした変化を共有しています。頼れる先駆者が舵をとる大船に乗っているという安心だけでは、もう先には進めない。私たち自身の力を結集して、波を乗り越えていかななくてはならないのだ——その覚悟をしっかりと固める1年だったかもしれません。

2015年度は、懸案の『物語の森へ』の編纂作業に注力する心積もりでしたが、継続事業である出張講座キャラバンをはじめ、多岐にわたる仕事を並行してこなす多忙な年でしたし、財政的にも苦しい局面が何度かありました。そのような試練を察してくださっているのでしょうか、みなさまからいただく励ましのひと言ひと言は、心に響く有り難いもので、そのような方々とのつながりこそ、私たちが荒波に立ち向かうための原動力であると感じました。

インドの図書館学者ランガナタンは「図書館は成長する有機体である」という名言を残しました。さまざまなものが加速度的に変わっていく時代に、昔ながらのメディアである本が輝きを放つために、私たちは何ができるでしょう。そして、図書館は、どのような変容を求められるのでしょうか。何十年か先に振り返ったとき、私たちのこれからの試みが“成長”の端緒だったといえるように、これまで継承してきたことを土台に、柔軟に知恵をめぐらし、思い切って新しいことに挑戦していきたいと考えています。

\*張替恵子（はりかえ けいこ）略歴

1976～77年、慶應義塾大学在学中に米国ウェスタン・ミシガン大学へ交換留学、同文学部卒業。

1978年、慶應義塾大学図書館・情報学科卒業。東京都日野市立図書館勤務を経て、1993年より東京子ども図書館職員。2015年6月同館理事長に就任。武蔵野大学非常勤講師。

共著に『児童図書館サービス論』（理想社）、児童向け書に『ブータレとゆかいなマンモス』（学研）、『黒ネコジェニーのおはなし』1～3（共訳・福音館書店）、『図書館に児童室ができた日』（徳間書店）等。

## 概況

今年度の最も大きな出来事は、6月の理事長交代でした。設立以来41年にわたり、東京子ども図書館を牽引し続けてきた松岡享子名誉理事長から、張替恵子理事長へと、バトンが手渡されました。これまで以上に、職員一丸となって、努力を重ねていきたいと思っております。図書館が次の40年、50年と継続できるよう、今後とも、ご支援くださいますようお願いいたします。

昨年度の財団設立40周年記念事業の継続事業として、当館の役職員がチームを組んで各地に出向く、「出張講座キャラバン」を、宮城県と新潟県で開催しました。地元関係者の方々のご尽力もあり、いずれも成功裏に終えることができました。

児童室では、3歳未満のお子さんをもつ保護者の名義で子どものために本を借りられる「プレ登録」を、新たに開始しました。利用者の低年齢化に合わせた試みとして、順調な滑り出しを見せています。

かつら文庫の定期公開は2年目を迎え、引き続きたくさんのお客さまが各地から足を運んでくださっています。荻窪地域区民センターの講座とタイアップした見学など、近隣住民の方々や諸機関と連携した企画も行いました。また、佐藤英和監事がライフワークとして蒐集した「アーディゾーニ・コレクション」をご寄贈くださり、展示資料にさらなる厚みが増しました。

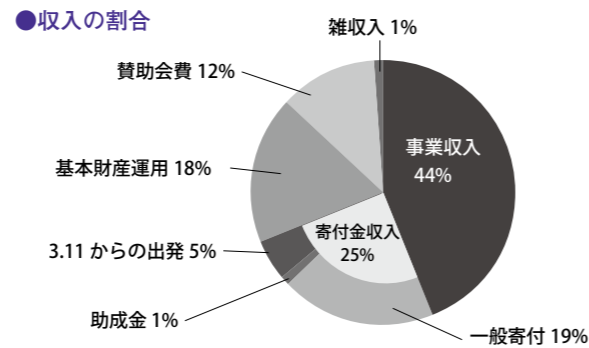
昨年度に比べ、ボランティアとしてお手伝いくださった方の人数が急増したのも今年の特徴です。これは、月に1度、1時間ほど事務仕事をお手伝いいただく「あるかもしれないボランティア」をはじめた影響も大きいようです。ほかにも、元都立図書館員の方たちによる蔵書データベース遡及入力など、みなさまのお力に助けられていることを実感した年でした。

次年度末の刊行に向けて、『物語の森へ』（児童図書館基本蔵書目録2）への収録作品の絞り込みが、ほぼ完了しました。次年度の最重要課題として、力を結集させ、編集作業を継続してまいりますので、どうぞ、ご期待ください。



## 財務状況について

今年度も、機関誌購読料、出版物売上、講師派遣等の事業収入に加え、みなさまからの賛助会費、ご寄付、助成金に支えられて、1年の活動を無事終えることができました。多岐にわたる事業を進める中、資金繰りに苦慮するときもありましたが、故石井桃子名誉理事からの遺贈のうち、今年度、満期を迎えたものがあり、なんとかしのぐことができました。ただし、人材育成奨励金などの積立ができませんでした。引き続き厳しい財政状況が続きますが、どうぞ今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 財務諸表

貸借対照表 2016年3月31日現在（単位：円）

科目	金額	科目	金額
<b>I. 資産の部</b>	<b>791,465,169</b>	<b>II. 負債の部</b>	<b>15,154,168</b>
1. 流動資産	41,905,727	1. 流動負債	15,154,168
現金預金	21,068,173	未払い金	510,833
売掛債権	2,445,745	前受金	13,292,381
販売用図書	16,000,459	預り金	1,350,954
機関誌	2,391,350	<b>III. 正味財産の部</b>	<b>776,311,001</b>
前払い費用	0	1. 指定正味財産	0
2. 固定資産	749,559,442	2. 一般正味財産	776,311,001
(1) 基本財産	666,058,222	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>791,465,169</b>
土地	361,224,400		
建物	225,579,844		
著作権	39,253,978		
定期預金	40,000,000		
(2) その他の固定資産	83,501,220		

正味財産増減計算書 2015年4月1日から2016年3月31日（単位：円）

### I 一般正味財産増減の部

#### 1. 経常増減の部

##### ① 経常収益

科目	金額
基本財産運用収入	<b>21,653,339</b>
基本財産利息収入	41,963
基本財産配当収入	665,227
基本財産印税収入	20,946,149
寄付金収入	<b>30,287,213</b>
助成金	1,375,000
3.11からの出発	5,330,487
一般寄付	23,581,726 *
賛助会費	<b>14,970,300</b>
事業収入	<b>54,587,286</b>
機関誌購読料	8,164,064
講習会・講演会・お話し	3,944,300
催事収入	3,101,850
講師料	4,031,143
登録料	27,000
施設使用料	485,000
出版物売上収入	33,954,872
取材・資料協力費	879,057
雑収入	<b>1,049,729</b>
受取利息	2,736
雑収益	1,046,993
当期収入合計	<b>122,547,867</b>

#### 2. 経常外増減の部

科目	合計
法人税等	<b>70,000</b>

### II 期末正味財産の部

科目	合計
当期一般正味財産増減額	<b>8,295,195</b>
正味財産期首残高	<b>768,015,806</b>
正味財産期末残高	<b>776,311,001</b>

##### ② 経常費用

科目	金額
事業費	<b>103,531,078</b>
人件費	53,576,230
図書館費	220,633
機関誌発行費	4,560,964
講習会・講演会・お話し	1,495,064
調査研究費	126,705
人材育成費	3,761,702
催事費	1,538,896
広報活動費	1,188,146
おばあさんのいす	1,140
出版費	13,499,561
在日ブラジル人・読書支援活動	972,648
会議費	7,848
3.11からの出発	8,332,085
一般諸費	3,954,078
減価償却費	6,060,378
諸会費	134,000
租税公課	4,101,000
管理費	<b>10,651,594</b>
人件費	7,409,725
会議費	184,492
事務費	1,323,443
一般諸費	834,767
減価償却費	784,267
諸会費	75,600
租税公課	39,300
経常費用計	<b>114,182,672</b>

\*佐藤英和氏より寄贈されたアーディゾーニ・コレクションの現金換算額を含む